

2000 年度
日本フランス語フランス文学会

春季大会
研究発表要旨

主催校 明治学院大学

目次

午前の部 10:00~11:30

第1分科会 中世 (本館2階 1253教室)	頁
1. 複合テキストとしてのモテトゥス アラン・ド・ラ・アルの作品を中心に早稲田大学(博士課程) 片山 幹生	1
2. 『散文トリスタン物語』の受容問題 (『散文トリスタン』から Gaston Phébus へ)明星大学 佐佐木 茂美	2
3. Littérature et musique à la cour de Bourgogne慶應義塾大学(非常勤) Serge LECLERCQ	3
第2分科会 16・17世紀 (本館4階 1456教室)	
1. 『エッセー』におけるソクラテスの位置 モンテーニュの人相学関西学院大学(非常勤) 徳 永 雅	4
2. デカルト『哲学原理』における「静止の力」の意味大阪大学(博士課程) 武田 裕紀	5
第3分科会 19世紀(1) (本館2階 1255教室)	
1. ミシュレの詩的想像力における自然発生説の影響日本学術振興会(特別研究員) 坂口 治子	6
2. ネルヴァルの韻文詩と散文作品の関連北海道大学(非常勤) 遠藤 史子	7
3. ポエジーの運動 ---- ロートレアモン『マルドロールの歌』における反復の研究東京大学(博士課程) 原 大地	8
第4分科会 20世紀(1) (本館2階 1254教室)	
1. 音楽をする?.....升水記念図書館 升水 龍樹	9
2. 『失われた時を求めて』における <i>La Joconde</i>福井大学 加藤 靖恵	10
第5分科会 20世紀(2) (本館2階 1201教室)	
1. La métaphore de l'eau chez Genet岩手大学 Patrice BOUGON	11
2. 幻視された東欧 ---- クノー、ル・グイン、ルノー・カミュ、ルーボアの架空国岡山大学 岩松 正洋	12
第6分科会 20世紀(3) (本館4階 1406教室)	
1. ジョルジュ・パタイユにおける供儀的芸術 ---- マチエールの問題を中心に一橋大学(博士課程) 荻野 厚志	13
2. ジャック・ラカンの「死」について(6)明星大学 片山 文保	14
第7分科会 語学教育・語学(1) (本館4階 1455教室)	
1. Le discours académique en Français Langue Étrangère ・上智大学 Bruno PEYRON	15
2. 接続法、そのコーパス的アプローチ.....愛知大学 中尾 浩	16
3. CORPUS による検索と質的変動指数による口語及び文語表現の傾向分析に関する方法金蘭短期大学 三石 博行	17
阪南大学(非常勤) Eddy Van Drom	

CORPUS による検索と質的変動指数による口語及び文語表現の傾向分析に関する方法

三石博行 (金蘭短期大学助教授) Eddy Van Drom (阪南大学非常勤講師)

データベース作成と CORPUS による検索

我々はフランス語表現における文語性と口語性の傾向を意識分析を用いて解釈してきた。しかし、この意識分析では分析主体の主観的な思惑を排除することは出来なため、実態調査に基づいた分析が必要とされた。

そこで、インターネット上で提供されている conc 1.76 を、フランス語の特殊文字を識別できるように改良し、口語表現に関しては 1996 年らか 1997 年にかけて放送された 27 の番組 (約 480,000 文字) を選び、また文語表現に関しては 1998 年から 1999 年にかけてインターネット上に記載された Le Monde diplomatique の 27 の記事 (約 487,000 文字) を基にして実態調査を行なった。

意識分析の結果を検証するために、我々が意識分析で試みてきた対立、原因、結果や目的表現に関する文語性と口語性の傾向分析を、この実態調査で行なった。

実態調査のデータ解釈としての統計的分析の必要性

実際に conc 1.76 を使った実態調査のデータから、直接的にそれらの表現の文語性と口語性の傾向に関する解釈が可能である訳ではない。何故なら、データベースの量、検索件数、それらの検索件数の比較値の三つの要素を基にして、口語性と文語性の傾向を判断しなければならないからである。また、データの中には、判断の前提条件である判断の可能性を疑わなければならないものがあり、出力データの分析に関する検定も問われるため、口語表現と文語表現からの検索件数の比較値の単純なパーセント分析から正確な解釈が可能であるとは言い難いのである。

統計的分析の必要性は実態調査から得られたデータの定量的解釈を進めるために必要となる。つまり、数値の正確な解釈は、その数値が導き出された仮説の検証が為されている場合にのみ成立する。

従って、実態調査のデータが幾つかの要素を含んでいる場合は、それらの要素を前提にした定量的な解釈が必要とされる。このことを一般に統計的解釈と呼んでいる。

統計的分析の成立条件

統計的解釈を進めるためには、以下に示す二つの課題を解決する必要がある。

第一の問題は、この実態調査から得られたデータを解釈できる統計概念を確立し、その概念を充たす関係式を見出すことである。我々は、表現の文語性と口語性の傾向分析を行なうために、質的変動指数の概念を用いた。この事に関してはさらに検討が必要となる。

第二の問題は、質的変動指数値から導きだされる表現の文語性と口語性の傾向の定量的判断基準の信頼度に関する点検をしなければならないことである。

質的変動指数の解釈とその問題点

我々は、頻繁に使用されている対立、原因、結果や目的の表現に限定して検索した。しかし、二つのデータベースから 10 件以下しか検索できなかった分析対象・表現があった。同時に、それらの中には、究めて高い質的変動指数値を示すものもあった。そのため、前に述べた第二の問題で示した検定の課題に、現在取り組んでいる。つまり、二つの変数からなる質的変動指数値のデータに対して、調査対象・データベース量の大きさ、出力件数・検索件数値を基にした、質的変動指数分析の信頼性の限界を示す関係式、言い換えると、質的変動指数の検定に関する概念とその数式が必要とされている。

CORPUS による検索と質的変動指数によるの口語 及び文語表現傾向分析の方法

三石博行 Eddy VAN DRO

- 1、言語・語彙分析の三つの方法
- 2、よく使われている表現に関する意識分析
- 3、口語的及文語的ニュアンスに関する事例分析・意識分析の問題点
- 4、口語的及び文語的ニュアンスに関する実態調査
- 5、文語体及び口語体表現に関する質的変動指数値分析
- 6、分析値評価値の検定と信頼性

実態調査の結果と意識分析との比較

n	表現	ラジオでの件数	新聞での件数	実態調査の結果	意識分析の口文ニュアンス	意識分析の点検
a-1	quoique	0	0	—	— 不明	?
a-2	bien que	8	9	E>O	文語>口語	○
a-3	malgré que	0	0	—	口語>文語	?
b-1	en dépit de (n)	1	8	E>O	文語>口語	○
b-2	malgré (n)	10	16	E>O	文語>口語	○
b-3	quitte à (infi)	0	0	—	口語>文語	?
c-1	cependant	2	28	E>O	文語>口語	○
c-2	néanmoins	3	6	E>O	文語>口語	○
c-3	pourtant	8	33	E>O	口語>文語	×
c-4	mais...	237	152	O>E	— 不明	×

口語的ニュアンス及び文語的ニュアンスに関する多様性指数値と質的変動指数値

n	表現	Oの件数	Eの件数	検索合計	$D=1-\sum p^2$	質的変動指数・IQV
1	néanmoins	3 (33.33%)	6 (66.67%)	9	0.444	0.889
2	en dépit de	1 (11.11%)	8 (88.89%)	9	0.198	0.395
3	bien que	8 (47.06%)	9 (52.94%)	17	0.489	0.998
4	malgré (n)	10 (38.46%)	16 (61.54%)	26	0.473	0.947
5	cependant	2 (6.67%)	28 (93.33%)	30	0.124	0.249
6	pourtant	8 (19.51%)	33 (80.49%)	41	0.314	0.628
7	mais...	237 (60.93%)	152 (39.07%)	389	0.476	0.953

質的変動指数値と検索数から導きだされる信頼係数値 q

n	表現	検索数・n	質的変動指数・IQV	$\log_{10}n \times (1-IQV)$	評価
1	néanmoins	9	0.889	0.106	信頼性はない
2	en dépit de	9	0.395	0.577	信頼性がややある
3	bien que	17	0.998	0.002	信頼性はない
4	malgré (n)	26	0.947	0.075	信頼性はない
5	cependant	30	0.249	1.109	信頼性はある
6	pourtant	41	0.628	0.600	信頼性はややある
7	mais...	389	0.953	0.122	信頼性は弱い

統計処理に必要な関数

1、多様性指数 D

$$D = 1 - \sum_{i=1}^k p_i^2$$

p_i = i 番目のカテゴリーに含まれるケースの比率

2、質的変動指数 IQV

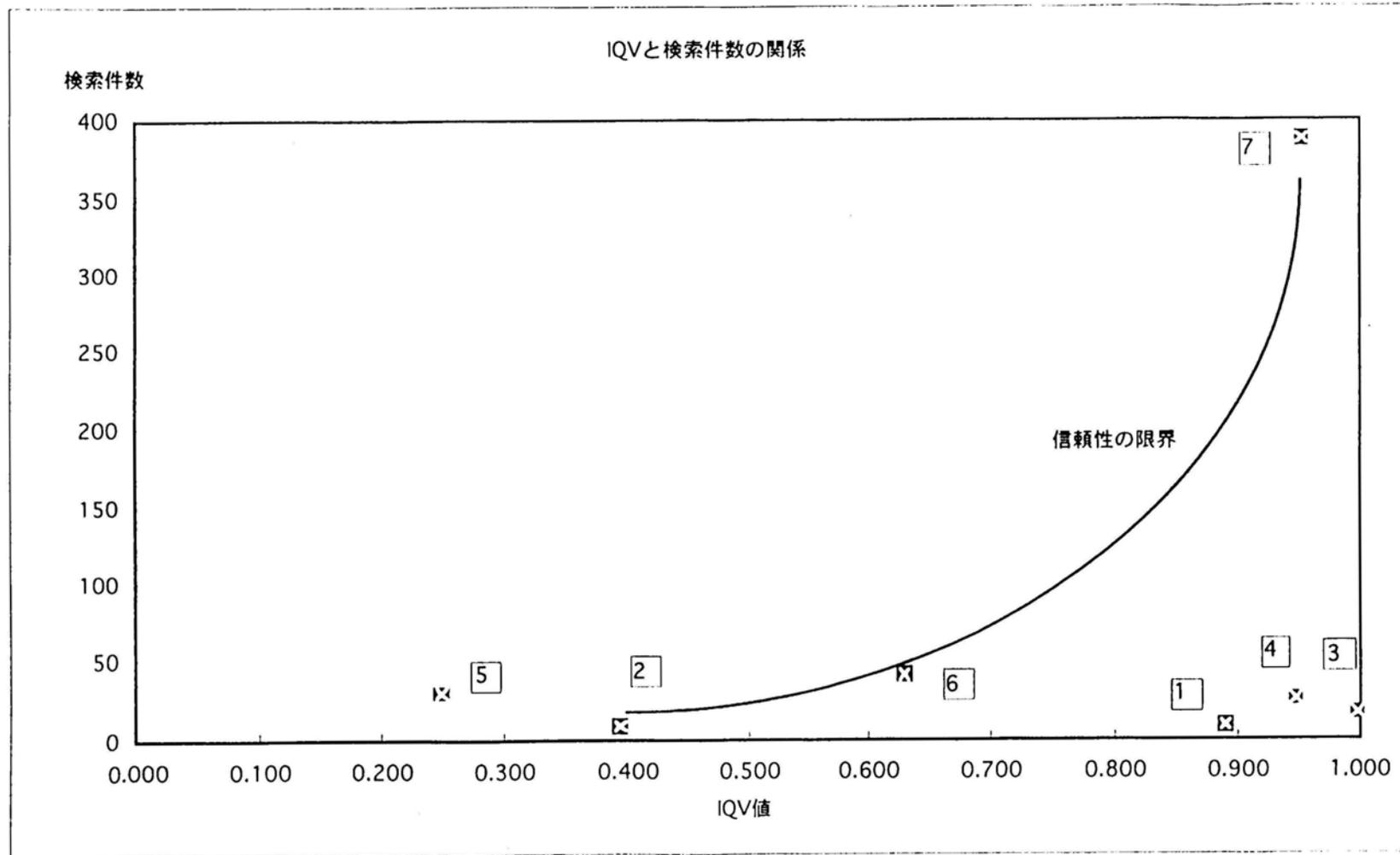
$$IQV = \frac{\left(1 - \sum_{i=1}^k p_i^2\right)}{(k-1) / k}$$

k はカテゴリーの数

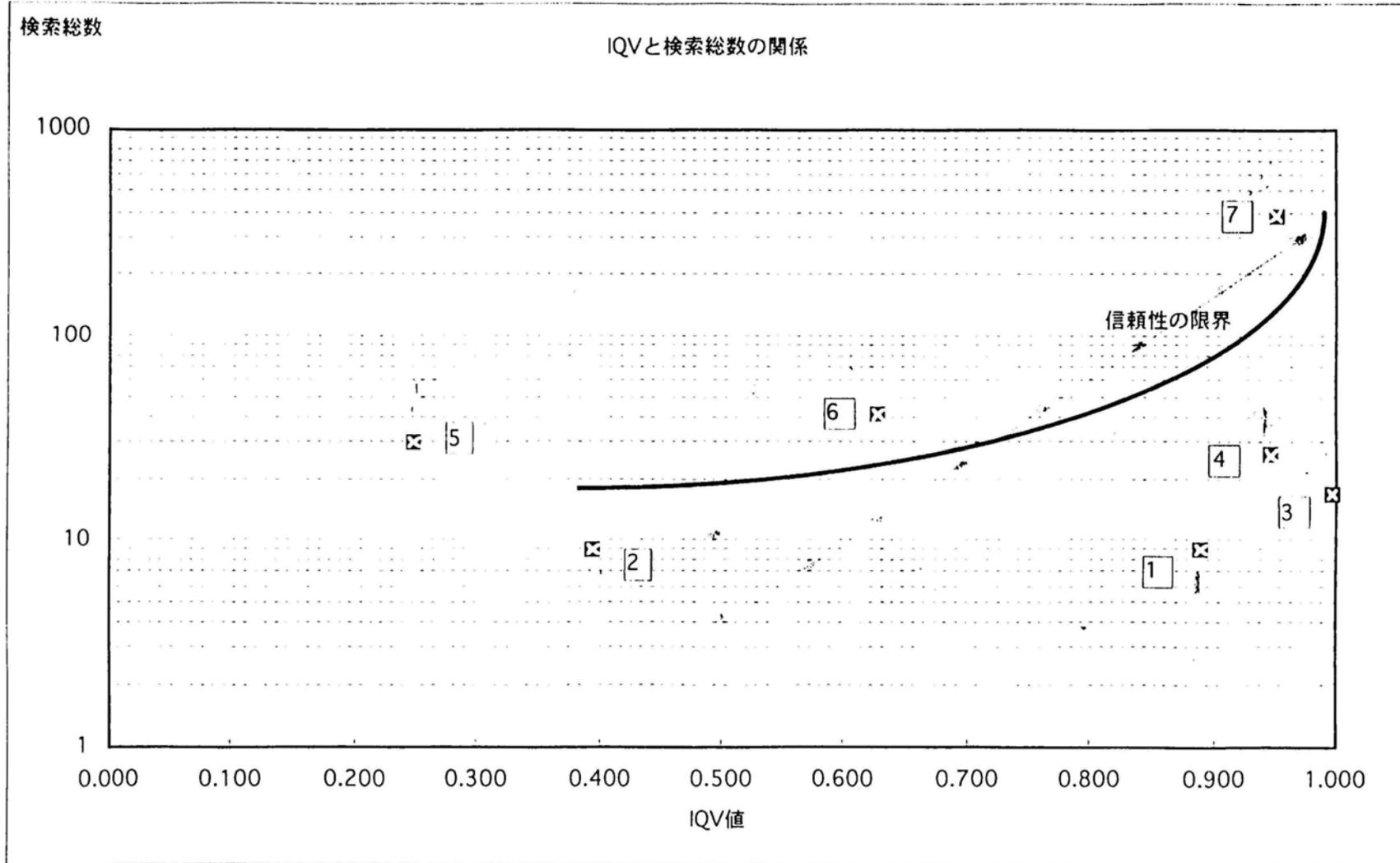
3、信頼係数

$$q = \text{Log}_{10} n \times (1 - IQV)$$

IQV と検索総数の関係 (整数座標を使った)



IQV と検索総数の関係 (対数座標を使った)

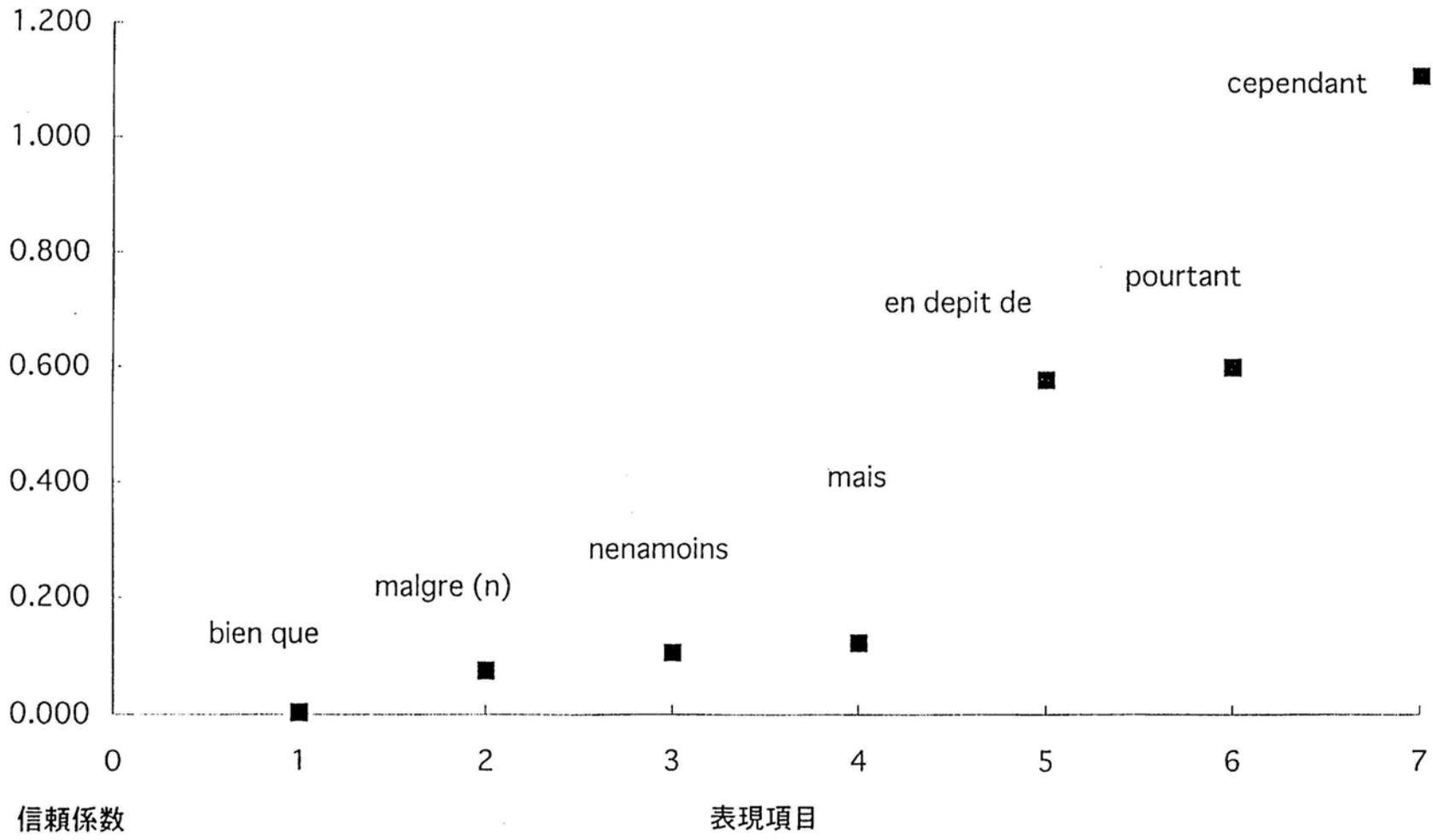


問題提起

1. 口語的、文語的、文学的言語活動の全てに涉って行われる実態調査
2. 口語表現に関する調査は、Mysoft のダイクテイションプログラム・Dragon Naturally Speaking (version Preferred) を使う
3. 質的変動指数値分析は、時代と文化の違いによって変遷するフランス語表現を理解するために活用できる。

信頼度を示すグラフ

■ 系列1



n	表現	検索合計・n	質的変動指数・IQV	1-IQV	$n \times (1-IQV)$	$\log_{10} n \times (1-IQV)$
0	bien que	17	0.998	0.002	0.034	0.002
0	malgre (n)	26	0.947	0.053	1.378	0.075
0	nenamoin	9	0.889	0.111	0.999	0.106
7	mais	389	0.953	0.047	18.283	0.122
0	en depit de	9	0.395	0.605	5.445	0.577
6	pourtant	41	0.628	0.372	15.252	0.600
5	cependant	30	0.249	0.751	22.53	1.109